

所属・職位	医学部看護学科実践看護学講座・教授	
氏名	井上 亮 (Inoue Ryo)	
取得学位	博士 (医学)、大分医科大学、1999年12月	
SDGs目標	  	

研究分野	一次性頭痛、高齢者せん妄
研究キーワード	慢性頭痛、片頭痛、薬物乱用頭痛、せん妄、脳血流、睡眠障害
研究内容	<p>・慢性連日性頭痛／薬物乱用頭痛の実態調査および発症要因の検討</p> <p>頭痛や緊張型頭痛があり、これらは有病率が高く、日常生活や仕事に支障をきたす疾患である。しかしながら、適切な自己管理がなされていない場合が多く、職場環境や日常生活環境等により容易に慢性化へつながりやすく、さらに、薬物乱用頭痛に至った場合には根本的な頭痛の対応がなされないままいたずらに時間が経過し、その間辛い状況を我慢しながら日々を送るといった状況に陥ってしまう。薬物乱用頭痛を主とする慢性連日性頭痛の実態を把握し、そのような状況にいたった因子を検討することは今後の快適な就業へつながるのではないかと考える。また、小児、思春期においても慢性連日頭痛は不登校へつながる重大な問題である。昨今、スマホの使用方による睡眠障害から不登校となる事例もあり、睡眠障害の実態やそれに伴う自律神経障害の把握も必要であろう。</p> <p>・脳血流モニタリングによる高齢者夜間せん妄の看護に関する検討</p> <p>脳血管障害を有する高齢者を対象とし、これまでの急性期管理に加え、NIRS（近赤外線分光法）装置の装着下に脳血流モニタリングを行う。NIRSモニタリング中、看護ケアやバイタルサインの変化に伴う脳血流変動有無の確認、せん妄発症時脳血流変化の確認、せん妄に対するケア実施後の症状変化および脳血流変化の把握等を行い、せん妄予防および早期発見につながるNIRS所見を検討する。</p>
研究業績・アピールポイント	<p>・時間生物学に基づく急性期脳卒中患者の概日リズム再獲得に向けた看護の挑戦 (科学研究費補助金、R3～R7年度)</p> <p>・脳血流モニタリングを用いた高齢者脳血管障害患者に対するせん妄マネジメントの開発 (科学研究費補助金 H25年度～27年度)</p>